令和６年度 第１回青森県ＤＸ推進会議議事録（サマリー）

日時：令和６年７月３日（水）15 時～17 時
場所：青森県庁西棟８８９会議室

１　開会
- 全委員出席（１２名）

２　青森県総合政策部長あいさつ

３　委員長及び副委員長選任
- 森樹男委員長（弘前大学大学院 地域社会研究科 研究科長）及び石井重成副委員長（青森大学 社会学部 准教授）を選任した。

４　議事

（１）「青森県ＤＸ推進プラン」策定の経緯及び年間スケジュールについて

（２）プランに基づく取組状況について

（３）推進状況の把握と発信について

（４）本県ＤＸ推進に向けた意見交換（自由テーマ）
- 各議題について、資料に基づいて事務局から説明を行い、全体を通じての意見交換を行った。
- 委員からの主な意見は以下のとおり。
  - ・意思が明確なプランができ、素晴らしい。早めに成果が出そうな分野に注目し、県民・事業者がアーリーサクセスを体感できるよう進めるべき。
  - ・プランが全方位的で凹凸がない印象。青森県の特徴をデータで示し、青森県ならではの先端的分野や重点分野を明確にすると狙いが明確になる。
  - ・KPI の中間指標には通常業務で使用している（特別な作業の不要な）数字を選ぶことによって、やらされ感を減らしつつ自然な形でこのプランへの当事者意識を生み出そうとしている。一方で各委員には、予算をかけてでも調査・把握すべき重要指標の提案を求めたい。
  - ・ダッシュボードには最終目標に対しての現在地を、途中のゴールも含めて見せることで、県民も現在のステップが理解しやすくなる。
  - ・成果が出ている事例は、顔が見える形で紹介するとよい。また、ロードマップの事業はペルソナ視点で整理し、様々な立場の人々に DX がどう変化をもたらすかを示すと分かりやすい。
  - ・「青森でもできる」から「青森だからできる」へのシフトが重要。青森県特有の課題や特徴を活かした DX を推進すべき。
  - ・官と民が並行で取組を進めつつ、合流点を作ることが重要。ペーパーレス化など、官が率先して行うことで民間も追随し、全体的な DX が進む。
  - ・DX を他人事と考えている農家や中小企業に必要性を理解してもらうことが課題。DX に取り組みたくなるような魅力的なアプローチが必要。
  - ・県民が DX を自分事として捉えられるブランドづくりが重要。スタートアップ推進で有名になった福岡市のように、県内にモデルとなる地域・取組ができると面白い。
  - ・リスキリングでは、生成 AI の普及でより高度なスキルが求められる傾向にある。また、女性が「自信がない」ために管理職を避けるデータがあり、女性登用に向けた支援が必要。
  - ・気候変動で作物の適地が変わり、青森県の農業に新たなチャンスが生まれている。変革のチャンスを生かし、青森だからできる農業を推進すべき。青森県が日本の食を担う基地となる可能性がある。
  - ・BPR（業務プロセス再構築）が DX の第一歩であり、中小企業に BPR の価値を感じてもらう機会が必要。BPO（ビジネスプロセスアウトソーシング）の活用も検討すべき。
  - ・DX 推進に企業の若手経営者を巻き込むことが推進力になる。また、地域での DX 実装に向けては、地域が自分たちで考え、実践するサイクルを作ることが大切。
  - ・県の DX 推進員を機能させるには、兼務をかけて所属長の理解を得ることが重要。
  - ・多くの人は変化を嫌うが、変化をチャンスと捉えられるように成功事例を PR し、変わることの良さを実感させることで行動変容につながる。

５　閉会

－以上－